

発表者

内山登紀夫氏

## ご質問①

○保護者の支援ニーズは具体的にどの様なものが挙がっていたのでしょうか。  
ex) 相談したい、息抜きしたい、具体的に対策して欲しい など

## ご回答①

統計調査では、小学2年生・小学5年生のアンケート実施時（2019～2022年）の子どもの行動上の困難さ（[SDQ | SDQとは？\(ddclinic.jp\)](https://ddclinic.jp/SDQ/aboutsdq.html)）（<https://ddclinic.jp/SDQ/aboutsdq.html>）の高さに対する要因を、アンケート実施時の保護者のメンタルヘルスや生活環境、1-6健診及び3-6健診時の乳幼児健診項目から探索するものであり、個別具体的な支援ニーズを記載してもらうことはしていません。また、研修会の対象者は支援者であり、保護者に実施していません。

この点をご承知ください。

統計調査の結果から考えられる、SDQの高い子どもを持つ保護者の支援ニーズは、以下です。

- ・ 保護者自身の健康の問題
- ・ 家族や近隣のサポートが不足していて、気軽に相談できる支援機関もない → 子どもの幼少期から現在まで、（緩くつながることも含めて）肯定的で継続的な関わり・サポートを行う支援者的存在が必要。
- ・ 子どもが幼児期に行動上の問題（かんしゃくや乱暴など）のあるケースがある → 保護者の子育ての悩みを肯定的に聞いて、しつけの問題で判断しない。必要であれば保護者の了解を得て、発達支援の専門機関につなぐなど、が必要
- ・ 一部の保護者については、現在も避難中であり、生活環境を整えるための生活の支援も必要

支援者向けのプログラムでは、支援者より、保護者が子どもの支援ニーズに気づいたり理解しやすくなるためにどのように説明したらよいか等について質問されることが多かったです。